

2021年度 公益財団法人JKA補助事業
緊急的な対応を必要とする事業
新型コロナウイルス感染症の拡大防止策補助事業

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当法人が運営している診療所は、複合型高齢者施設（特養、ショートステイ、グループホーム）と同一建物内にある。診療所では外来患者を診察することもあり外部からの来訪者が増えるため、施設入居者と来訪者との接触の機会が増え、館内の換気やアルコール消毒等を徹底していても新型コロナウイルス感染やクラスター発生のリスクが高まることが考えられる。そこで入居者と来訪者との接触を極力減らし、感染及びクラスターの発生を未然に防ぐための対策が必要である。

そこで本補助事業により持ち運び型心電計・ポータブルエコーを導入し入居者への診療を各々の居室で行うことで、診察室に患者を集中させることなく簡易的な心電図検査や画像診断を実施することが可能となる。また該当機器導入により、万一施設内で新型コロナウイルス感染症が発生した際にはゾーニングにも対応した診療が実施可能となる。感染患者と他の入居者との接触を避け、感染拡大を防止する。また該当機器は院外への持ち出しが可能であるため、訪問診療先でも簡易的な検査が可能となる。そのため外来患者に対しては来院ではなくこちらから訪問診療に出向くことで、施設への来訪者数を減らし入居者との接触を減らすことが可能となる。

当法人は補助事業実施において感染防止・拡大防止に努めることで施設入居者が安心して医療を受けられる体制をつくること、また施設外の患者に対して提供できる医療の幅を広げ、地域医療に貢献することを目的とする。

(2) 実施内容

①ポータブルエコーの導入

社会福祉法人みかん会内のみかん内科クリニックに導入。施設入居者の診察に携行し、居室にて画像診断のために使用。また訪問診療に携行し、訪問先にて必要時に使用。



②持ち運び型心電計の導入

社会福祉法人みかん会内のみかん内科クリニックに導入。施設入居者の診察に携行し、居室にて簡易的な心電図検査を行うのに使用。また訪問診療時にも携行し、訪問先にて必要時に使用。



2 予想される事業実施効果

持ち運び型心電計とポータブルエコーを導入したことにより、施設入居者への居室での診療にて簡易的な検査が可能となった。入居者の診察室での受診はなくなり、外来患者との接触の機会を減らすことに繋がった。外来患者に対しては極力訪問診療に出向くことで施設への来訪者数を減らすことができ、また該当機器の活用により提供できる医療の幅が広がった。

今後万一施設内で新型コロナウイルス感染症やクラスターが発生した際にはゾーニング対応を実施することになるが、該当機器の使用によりゾーニング対応下でも滞りなく入居者の診療を行うことができると考えられる。徹底した感染対策のもとでも感染リスクをゼロにすることはできないが、感染症・クラスター発生に備え該当機器を活用した綿密な診療計画を立て、迅速に対応ができるよう準備したい。

本補助事業実施は当法人の医療提供において一層の感染防止・拡大防止を意識する機会となった。今後も新型コロナウイルス感染症だけでなく他の感染症に対しても感染拡大防止に努め、入居者や地域の方々が安心して医療を受けられる体制づくりを進め、地域医療に貢献したい。

「この事業は、競輪の補助を受けて実施した事業である。」

